

## 連携先世界遺産：清水寺

## 京都の文化遺産とその保護～清水地域の防災への取り組み

## 本科目が取り組んだ課題・改善事項

座学・フィールドワークを通して、文化財の価値の重要性を学び、守るために、地域の災害危険性について考え、具体的な検討を行う。

## ■受講生

今泉 壮紀 (立命館大学・産業社会学部・1回生)、岡田 梨佐 (立命館大学・産業社会学部・5回生)、尾崎 侑哉 (京都産業大学・外国語学部・4回生)、鏡味 佑紀香 (立命館大学・文学部・3回生)、河越 光 (立命館大学・国際関係学部・4回生)、川畑 裕 (立命館大学・国際関係学部・5回生)、佐々木 純 (京都女子大学・文学部・2回生)、澤森 奨太 (立命館大学・理工学部・3回生)、新保 俊大朗 (立命館大学・理工学部・3回生)、高橋 信晴 (立命館大学・法学部・1回生)、高松 隆晃 (立命館大学・理工学部・3回生)、谷久 梨子 (京都光華女子大学・健康科学部・1回生)、田端 優貴 (立命館大学・理工学部・2回生)、戸川 貴裕 (立命館大学・法学部・4回生)、西澤 節茄 (立命館大学・法学部・5回生)、坂東 美佳 (立命館大学・理工学部・1回生)、船岡 龍一 (京都産業大学・経営学部・4回生)、増井 慎太郎 (立命館大学・法学部・6回生)、益田 怜奈 (同志社女子大学・現代社会学部・1回生)、三井 誠也 (京都産業大学・外国語学部・4回生)、宮下 愛那 (立命館大学・文学部・3回生)、山本 航平 (京都産業大学・外国語学部・4回生)、山本 淳平 (立命館大学・産業社会学部・3回生)、吉田 侑乃 (立命館大学・経営学部・4回生)

## ■TA (ティーチングアシスタント)

山口 奨 (立命館大学大学院・理工学研究科・博士課程前期課程1回生)

## ■担当教員

大窪 健之 (立命館大学・理工学部・教授)

## 活動目的・概要

世界文化遺産である清水寺は、年間400万人を超える参拝者があり、日本を代表する寺院です。本プログラムでは、この貴重な文化遺産を守るために取り組まれている活動や設備について、座学とフィールドワークで学びます。清水寺では文化財等を維持管理し、火災等の災害から守ることを主な目的として「清水寺警備団」が結成され、現在に至っております。

また、地震による大火から守るために、京都市が平成18年度から国宝や重要文化財が集積する東山区清水・弥栄地域において、地域力を最大限に発揮して防災力を強化する「文化財と地域を守る防災水利整備事業」を展開しています。フィールドワークでは、清水寺の文化財の価値について僧侶から説明を受け、実際に見学を行い、境内と周辺地域の災害リスクに関するグループ調査を行います。最後に「災害図上訓練D I G」を行い、文化遺産を核とした地域の災害脆弱性と対策について幅広い観点から考察し、グループごとに発表します。



フィールドワーク



設備見学



災害図上訓練



成果発表

## ◆主な活動

- |   |   |
|---|---|
| 2018.9.6 講義ガイダンス+歴防研究所の活動紹介                     | 2018.9.7 清水寺周辺地域の防災水利整備事業                             |
| 2018.9.6 清水寺とその歴史について                           | 2018.9.8 フィールドワーク 1 *各地において事業の説明(市民利用消火栓、高台寺防災公園、etc) |
| 2018.9.6 清水寺と地域の防災活動に向けた取り組み                    | 2018.9.8 フィールドワーク 2 *グループ毎に現地調査(地域の災害危険性、防災資源、etc)    |
| 2018.9.6 清水寺内の文化財建造物の保存修理について                   | 2018.9.8 災害図上訓練(実技・ワークショップ実施)                         |
| 2018.9.6 境内見学                                   | 2018.9.9 災害図上訓練(発表+総括・講評)                             |
| 2018.9.7 清水寺とその災害について1<br>(災害史を古文書から読み解く)       | 2018.9.9 生徒同士の意見交換会                                   |
| 2018.9.7 清水寺とその災害について2<br>(近年の災害とその対策:地震・土砂・火災) | 2018.11.24 成果発表に向けての具体化の作業                            |
| 2018.9.7 設備見学および実技体験<br>(防火水槽、ドレンチャー、放水銃等)      | 2018.12.9 成果発表  |

## 活動の成果

### 本講義を通して、受講生が明らかにした「本地域における防災上の課題」

本講義の座学・フィールドワークを通して、各班から【表1】の様な多くの問題点が挙げられました。その中でも特に「地震による建物の倒壊」「倒壊後の火災・延焼」が、より発生しやすく、重大な問題であることが認識されました。そして、これを基に災害図上訓練（DIG）を行った結果、初期対応を行うためにも、観光客の円滑な避難を実現させるためにも、「災害（火災）発生箇所の把握」を、どのように行うかが課題点として挙げられました。このように、受講生自身が文化財や地域を守るために、地域の災害危険性について、調査・考察を行い、新たな問題点も明らかにしていることが見受けられました。

#### － 座学・フィールドワークから認識された本地域における防災上の課題 － 【表1】

- 1班：観光客の混雑により避難が困難、観光客の土地勘がなく避難経路・災害対策の認知していない
- 2班：駐車場-清水寺間に多くの人が避難できるスペースがない、避難場所・避難経路がわかりづらい
- 3班：避難経路に緊急車両が通る、山に囲まれており土砂崩れが発生すれば避難経路が通れなくなる
- 4班：外国人が消火設備を使えない、消火栓の使用頻度が少ない、交通量を緩和する必要がある
- 5班：木造建築物が多く火が燃え広がりやすい、停電が発生し、夜間では避難経路が判断しづらい



#### － 災害図上訓練（DIG）により明らかになった防災上の課題 －

災害（火災）発生箇所の把握

### 本講義を通して、受講生が提案した「防災上の課題における対策」

本地域における防災上の課題【表1】に対して、本講義のフィールドワーク・災害図上訓練を通して、各班から【表2】の様な多くの対策アイデアが挙げられました。

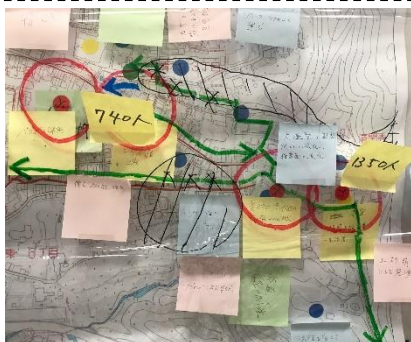
#### － フィールドワーク・災害図上訓練から認識された本地域の防災上の課題における対策 － 【表2】

- 1班：茶わん坂の電柱の地中化、参道右側通行、タクシーの乗り入れ禁止、HP内に防災マップ挿入
- 2班：地下シェルターの建設、茶碗坂の立ち入り規制、デジタルサイネージの設置、スピーカーの設置
- 3班：大講堂への避難誘導、急斜面やがけ崩れが起こりやすい場所での挿し木の植木の制限
- 4班：消火設備の柄の変更、消火栓使用のイベント、消火設備のマップの配布、地下トロッコの建設
- 5班：投てき消火剤の設置、消火栓設備のライトアップ、花灯路の設置、石材のコーティング

これらの事から、幅広い視点から現状を把握し、災害対策のあり方についての具体的な検討を行うことができる能力が身に付いたと考えられ、本講義の目的を果たしたものと思われまます。



▲ 景観に配慮された消火栓



▲ 危険箇所をプロットした地図（災害図上訓練より）



▲ 提案された避難ルート



## 活動を振り返って

- この4日間で学んだ視点というのは、これからの人生においても貴重なものとなりましたし、清水寺で学ぶという経験ができたことは人生の宝となりました。
- 昨今災害への意識が高まっていることから道徳の授業などで命の重要性について説く以外にも防災の面からも人命や文化財がいかに価値あるものか考える時間もあればよいのではないかと感じました。
- 今まで京都は街並みの景観に対して厳しすぎると感じていましたが、景観を守っていく文化は非常に大切であり、これからも守ってほしいと感じました。
- 災害というのは突然訪れるもので、準備するのはなかなか簡単ではないですが、防災のためにここまで真剣に考えていることを改めて感じ、自らの防災意識を変えるいい経験でした。
- 「防災って面倒くさそう」という初めの認識は、4日間の授業を経て、「地域のことを知るの面白い」「防災について考えることを通じて、積極的に生み出せる価値もあるのではないか」という気づきに転換しました。
- これまで防災については正直詳しくはなく、人ごとのように見ていましたが今回のこの4日間の学びで、一人一人の意識が大切なのだということを強く感じました。
- この4日間で清水寺やその地域の防災について考えるきっかけをいただき、ほとんどの人が知らないような問題等知ることができ大変勉強になりました。今後、この講義を活かして自分たちの住む地域についても防災について考えたいと思いました。
- 清水寺の防災について初めて考えてみましたが、世界遺産特有の問題が発生するし、観光地という土地も限られた場所でしか活動できないため、それを考慮した上での案はとても難しかったです。
- 今回の授業を通して災害が起こった場合、助かるのかを検討することで普段から防災をするための行動をどのようにすればよいかどうかを考えるきっかけになりました。今まで考えもしなかったことを知ることができてとても面白く、これから他の遺産を見るとき視点は今までと別の視点から見ることができると思うのでとても楽しみです。
- 災害調査の視点で地域、境内を見て回りましたが、いざワークに取り組んでみると注意して見ていたつもりでしたが思っているより細かく見る事が出来ていなかったと感じました。

## 担当教員からのコメント

### 大窪 健之

この演習は夏季集中講義としては5年目となり、世界遺産PBL科目に正式に加えていただいてからは2回目の合同発表会に臨みました。このため各班の成果を、それぞれの持ち味を活かしつつ一つのパワーポイントにまとめるというチャレンジも2回目となりました。最終日には各班からの成果発表と所有者様からコメントいただいた後に、教員の方で各種の提案内容を整理させていただいて一つの原案を示すことから議論を始めるのですが、今年はスケジュールの関係で昨年度よりも作業時間が短く、各班の発表を聞きながら同時並行で原案を考えるという、担当教員としても瞬発力を試される演習形式となりました。結果的には全員の合意を得られたのですが、果たして本当に全員の思いを盛り込めたのか若干の不安を残す結果となったように個人的には思います。次年度に向けて、アイデアの集約プロセスについても、あたらしい取り組み方法にチャレンジできればと思っています。

## 活動資料



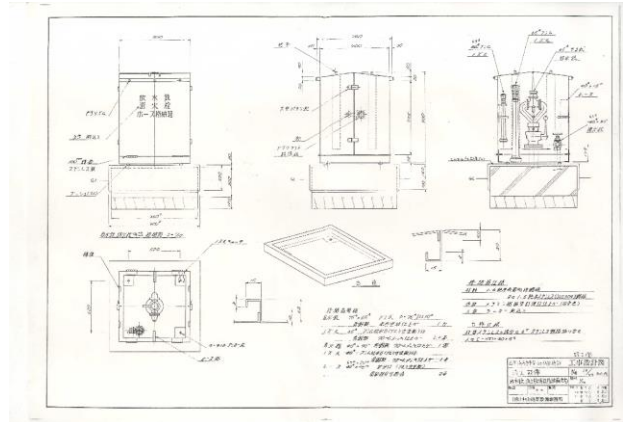
▲僧侶からの貴重なお話を直に聞き、文化遺産の価値と重要性を学んだ。



▲消防設備見学・実技体験



▲フィールドワーク



▲消防設備の図面



▲災害図上訓練時により、地域の災害危険性を明らかにした。



▲最終日の意見交換会後の集合写真